



天覧山・多峯主山の自然を守る会 会報

やませみ

いつのまにか影は長くなり 空は高く
澄んだ空気はうれしいものです。

ニュースのほうも うれしいものが届いています。
「小中学校建設の見直しあり得る」との
助役の答申や、環境調査でわかった
山の生きものたちの多様性。源流流の
小さなトラスト運動のはじまりなど...

地道に続いている対国交渉や田舎の
ふるさと散歩の報告やお誘いもあります。
他、グループの方のイラストも載せて
秋の夜長、おいしいお茶と一緒に
やませみ18号で笑みある夜ふかしを
どうぞ...



FROM EDITORS

編集室から



ここ何年か毎年、異常気象だといわ
れていますが、今年の集中豪雨は本当
に凄まじいものでした。集中する雨は
まさに温暖化の影響。もうすでに温暖
化は始まっていたのです。自然の中
で農業をしている人だけでなく、町の
中で暮らす私たちも、自然というもの
は侮ってはならない、そして自らの生
活が自分自身にかえってくるというあ
たり前の自然のシステムに改めて気付
かされたのではないのでしょうか。これ
からは自身の為にも、飽きたからと
言って買い替えたりせず、今ある物を
大切に、再利用できる物を選び、乗
車もなるべく使わないようにして、乗
る時はアイドリングストップを肝に銘
じ、自分で行うことは少しづつやっ
ていこうと思います。でもこのことは
私の子供の頃には当たり前の事だった
かもしれない。その頃「ムダにする
とバチが当たる」と言われましたが、
本当の事だったんだなとつくづく感じ
てしまう今です。

小船晶子

日曜日

ふる里散歩の
お知らせ

山も川辺も、さまざまに彩られるこ
れからの季節。私達も、豊かな実りを
少し分けていただきましょう。
ムカゴごはん、クリスマスリース作
りなど、楽しい企画を考えました。

◇『秋の色を探そうの巻』

十一月八日(日)

午前九時半 能仁寺山門前集合
山歩きの後ムカゴごはんでお昼

◇『冬の野山にいのちを探そうの巻』

十二月十三日(日)

午前九時半 能仁寺山門前集合
山歩きの後、市民会館にてクリス
マスリース作り(二時半より)

◇『朝日を浴びて初歩きの巻』

一月一日(金)

あさ六時 能仁寺山門前集合

◎持ち物・一月以外はお弁当

◎参加費・各回保険料一〇〇円

◎共催・はんのう景観トラスト

玉原生態系保護協会 飯能名栗支部

(助 崎)

会員の募集集中!

現在、天覧山・多峯主山の北東地域に
は、西武鉄道による巨大団地計画があり
ます。「天覧山・多峯主山の自然を守る
会」は、計画の発表以後、署名運動や、
県や市に対する働きかけ、自然観察会、
会報「やませみ」の発行などを通してこ
の地域の自然を残すことを訴えてきまし
た。この団地計画に対する県の許可は、
まだ下りていません。緑豊かなふるさ
とを守るのは、私たちひとりひとりの市
民です。まだ間に合います、どうぞあな
たも参加して下さい。
会費や手続きなど、詳しいことは事務
局までお問い合わせ下さい。また「やま
せみ」やお知らせなどは、谷口眼科・銀
河堂・Café裏にも置いてあります。



やませみ

NUMBER・18

発行日 / 1998年10月14日 編集・発行 / 天覧山・多峯主山の自然を守る会
事務局 / 浅野正敏 埼玉県飯能市柳町18-17 ☎0429-74-1691 小船晶子 ☎0429-72-4602
編集局 / 早瀬あかね ☎0429-77-1890 (FAX兼) イラスト・レイアウト / 石岡真由海
郵便振替口座 / 名称「天覧山・多峯主山の自然を守る会」 番号 00580-9-16342



九月市議会

「多峯主山中腹の小中学校建設は
見直しもあり得る」と助役答申!!



二十年前、この多峯主山中腹の小中学校建設と、武蔵丘団地と永田台団地間の道路建設は、西武鉄道の団地開発の要として計画された。しかし、当時の飯能市民によって「開発ストップ」を求める大運動が起こり、西武は譲歩をやむなくされ、ついに道路と学校建設の計画を取り下げるに至った。そしてそのまま開発計画そのものも休眠状態に入ったという経緯がある。ところが四年前、突如再開発計画が浮上。そしてその計画では団地は西武が造る、しかも道路と学校は、市が都市計画として推進していくとなっていたのである。この発表に市民は大きな衝撃を受け、以来開発の見直しを求める直接請求運動をはじめ、オオタカ保護や自然保全を粘り強く西武・県・市へ訴え続けてきている。

そんな中、助役が九月市議会に於ける常田市議の質問への答弁の中で「学校等の関係については、当時の状況とは若干変わってきている。すなわち少子化あるいは空き教室の問題等も出て

いる。また、小中学校建設には80億円ぐらいかかり、国庫補助がなければ、当然飯能市だけではできないという状況もある。また通学区の自由化という事も国で言われており、必ずしも学校建設については、造る必要があるのか、造らなくても済むのかという事を、まだ私見だが考えるべきと思っている。最終的には教育委員会に考えていただくようになる」と発言した。この発言は、これまでの市の頑なな態度からの大きな前進であり、心から信じていきたい喜ばしいニュースである。もし計画の見直しが実現すれば、市民が願ひ続けてきた当地保全への大きな一歩となる事は確かであろう。更に、県民休養地構想の具体化の中でもこの道路、学校建設は、当然見直しが求められていくのは明らかである。今後の推移に期待し、注目していきたい。

ハヤセ



去る8月27日埼玉県自然保護課・環境推進課へ赴き、以下の話を伺って来ました。

◎飯能県民休養地自然環境調査報告書は、積極的に県民、市民にPRすべきと申し入れをしたが、県としては内部資料扱いと考えているとの事であった。ただし、非公開文書ではないので公開条例に基づいて入手できる事から、市民の立場でこの報告書の内容となっている自然の豊かさ等をアピールしていく旨を伝えた。

◎同休養地構想をすすめるに当たって、県から委託するコンサルタント会社が決まったとの事で、市民から同社への説明会等の要請等は可能である旨を確認した。

◎同報告書の中に、県による検討委員会、市による協議会の設置がうたわれているが、これらに対して構想の段階から市民、県民の参加が必要である旨を申し入れた。

◎天覧山・多峯主山周辺に生息しているオオタカの保護に関して、企業・行政・保護団体等による関係者会議を近々開催する約束をした。

◎西武鉄道による武蔵丘分譲地開発に関する事前協議申請は、三年前に県環境アセスメントに関する条例が制定される前に駆け込み提出されたが、現時点においては同条例の規定に沿って指導・審査して行くとしている。

自然と共に生きる 空き缶のリサイクル

高校一年 佐藤正和

私の通っている東野高等学校の前に、高く聳える入間市博物館がある。そこに空き缶回収機がある。それを「くうかん鳥」という。その機械の仕組みは、一つの缶を入れると一枚の券が出て来る、その券が百枚たまったと粗品に交換できるという。入間市の公共施設にはこの機械が至る所に設置してある。入間市だけでなく、埼玉県下では日高市、長瀬町などに置いてあると聞いていた。前にテレビで見たのだが、長瀬町では一つの缶を入れると五円玉が出てくるというのである。埼玉県下の様々な市町村で、空き缶回収事業を行っている。そんな事をやらないでも、空き缶のリサイクルはできないのだろうか。特にアルミ缶の方がリサイクルのしがいがあるという。

中学のころ保健委員会に所属し、プルトップ及びアルミ缶を一ト収集し社会福祉法人に送り、車椅子を一つ寄贈するということを行っていた。

一つの缶製品を買う、飲む、捨てるという行為をしている。「捨てる」という行為をしている以上リサイクルはできない。各市町村は空き缶のリサイクルについて真剣に考えてみたらどうだろうか。

飯能市でも入間市のような空き缶回収機を置いたらどうだろう、仕組みは飯能市で個性的に考えるのがいいのではなかろうか。大規模開発ばかりに税金を使わないで、少しはリサイクルのことを真剣に考えたらどうだろうか。飯能市も人口が増え、空き缶のポイ捨てが多くなっている。捨てなければ有効な資源だ。その資源を生かすも殺すも市と、市民の姿勢が問われているのではないだろうか。



例会も 月二回 開いています。



◇第二週 日よう日ふる里散歩の後二時半より、原則として市民会館。◇第四週金曜夜七時半より織物会館。例会はどなたでも参加大歓迎です。ご自由にご参加下さい。

飯能県民休養地計画に おける自然環境調査の 結果から



長い間、休眠状態となっていた飯能県民休養地構想が、多くの市民や県民、あるいは首都圏からの熱い要望をうけ、再スタートする運びとなり、このほど埼玉県生活環境部自然保護課から、一年間かけて行われた自然環境調査報告書が発表されました。報告書は自然環境を中心に文化財や歴史的環境にもふれています。

この報告書によると植物の調査では747(※751)種類が確認され、この中には、国のレッドデータブックに絶滅の恐れがあるとして「絶滅危惧種」や「危急種」「希少種」に指定されている種が5種類、埼玉県のレッドデータブック掲載種が35(※36)種などと希少種も多く見られ、県内では既に野生の状態では存在しないとされる「野生絶滅種」にランクされる種が調査地内に自生していたことも明らかとなりました。

鳥類調査でも、生態系の高次消費者に位置するオオタカやツミ、フクロウ、ハチクマなど猛禽類の生息がみられ、実に108(※124)種の野鳥が記録されています。とくに平成9年には、県内でも繁殖記録の少ないタカの仲間・ハチクマが繁殖に成功し、一羽が無事に巣立った事も確認されました。哺乳類の調査では、山地性のアナグマやテン・イノシシなど、飯能に生息するとされる動物の87%にあたる21(※25)種が確認されています。

昆虫では、この地域を特徴づけるものの一つにトンボ類の生息があげられます。天覧山・多峯山という低山の尾根に囲まれた湿地には現地調査で54種、既存資料も含めると60種のトンボ類が確認されました。これは県内で見られるトンボ類の67%にあたり、県下有数のトンボ生息地といえるでしょう。またトンボ類と並んでチョウの

種類も多く見られ、オオムラサキやコツバメなど里山のチョウを中心にして71(※73)種が現地調査により確認されています。

今回の調査では調査期間が一年と短いため、当地の自然環境を把握するには十分とは言えませんが、天覧山・多峯山を中心とする一帯は、県内でも絶滅に瀕している生物種が多種にわたる生息あるいは自生する、極めて自然度の高い地域であることを示しています。

調査結果の中で、過去の生息記録はあっても今回の現地調査においては生息が確認されなかった生物種が目立ちますが、これらは既に地域から絶滅してしまったとも考えられ、多くは宅地開発やゴルフ場による森林や水脈の分断が原因と思われる。

注 (※) 内の数字は守る会調べ

小さな運動が
はじまりました。
トラスト

天覧山裏山の一角、諏訪沢の源流にあたる谷津田約一八〇坪を、当会が無償で使用させて頂く事となった。ここは県民休養地構想の計画地内でもあり、市民が積極的ににかかわる起点となるかも知れない。現在は休耕田であるが、これをどう利用していくか会員の中で話し合いが進められている。湿地として、または深さの違う池として整備し、ここならではの植物や昆虫を自然繁殖させて観察する。ショウブやハスといった水生植物を育てる。田圃を復活するなどの意見が出ている。まずは皆で草刈り、畦づくりの作業から始めよう。



雨乞い池を訪ねて



八月の猛暑の中、曹洞宗の古刹「能仁寺」の寺有林脇の小径をぬけて多峯山山に向かった。都心からわずかの時間の地に、こんな素晴らしい自然が残っていたんだ、というのが第一印象。

お目当ての雨乞い池は山頂に近い径の左手にあった。周囲の地形や沢筋の様子からして、往時は淵であったと推察された。傍らの高札に、昔はこの池の上手に高麗神・閻魔神が祀ってあって、近郊の人達の信仰があつた。早天が続くここに集まって賑やかに雨乞いのお祭りをした。また、息を止めてこの池を七回りすると何かが起こる、という様な事が記されていた。『飯能市史(民族編)』によれば、「飯能周辺で雨乞い寺として有名なのは名栗の竜泉寺だが、市内にも雨乞いを行った場所がたくさんあった」と記されている。南川・諏訪神社近くの雨乞い池や吾野・大蔵山の雨乞塚の事例などを紹介している。

今日、市民の憩いの場となっている飯能河原を流れる名栗川(入間川)は、荒川へ連なっている。首都圏の水瓶の

一つであるこの川の水源は蔵山と知ったが、この大荒川の水源林としてのお山と竜泉寺や、飯能周辺の数々の雨乞場をいづれ日を改めてゆっくり訪ねたいものである。

山頂からの帰路、雨乞い池の近くにある御嶽八幡神社に立ち寄った。高札に、祭神は菅田別命・大山咋命・大己貴命・小彦名命とあった。八幡様は初め武勇の神として崇められていたが、信仰が広まるにつれて疫病や害虫を取り除き豊作をもたらす農業、豊穡の神ともなった。又、大山咋命は日吉・山王信仰の神であり、この神を祀っている京都・松尾大社を創建した秦氏一族は鳴鏑・鏑矢をもつ神、すなわち雷神として尊崇していたという。

水を司る雷神は農耕の神でもあったわけで、これらにより飯能地方では古き昔より、水とそれを育む森林を大切に、敬虔なる信仰の心をもって農林業に励んできた生活の歴史が偲ばれるのであった。

「水源の神を語る会」世話人
清水英毅

会を考へる野島猿

「町まるごと博物館めぐり」に参加して



さる八月二日茨城県猿島町で地元住民グループが主催する右記の行事に参加しました。当日は酷暑にも拘らず、エコミュージアムの実践地を興味深く眺め解説に聴き入り、アツという間に終日の帰途についていました。

「町民手づくりマップ」には二十二人のサテライトがありますが、当日は九ヶ所を巡回しました。「私の宮沢賢治かん」をコアとしてスタートし、リサイクルセンターでは週末を利用し、て役場の職員が作った東屋を見学し、匠の家では見事なミニチュアを拝見し、猿島高校の温室農場ではパピルスを見し、歴史遺産としての常盤寺をみて、「時間と空間を考える博物館」で小野羊子さんの話を聴き、逆井城跡のグリーングラスで昼食となりました。志度谷津では蓮の淡泊な種子を味わい、由緒ある沓掛香取神社では狛犬の彫刻や樺の大木に清々しさを満喫することができ、新鮮で青々と倍もあるピーマンを土産にいただきました。

「町まるごと博物館めぐり」は主催者・小野羊子さんのポリシーが貫徹されていて、著書「私の宮沢賢治かん(同時代社刊)」の一読を推奨します。著者がゴルフ場反対運動や立ち木トラスト運動やオオタカ保護の会や「猿島野の大地を考える会」やゴミ拾いなどを通じて、自然との共生への共鳴を越えて思想の実証者としての姿は、華奢で小柄な風貌からは想像だにできない、哲学の力強い余韻を読者に与えるでしょう。

「町まるごと博物館めぐり」のニュースは早速「広報さしま」で全町民に配布されていますが、住民の共有資産として認知されんことを願ってやみません。

くらはし ひろまさ
(飯能市岩沢在住)